

にほんご人お〜い！

国際交流基金ベトナム日本文化交流センター ニュースレター2019年7月号(第13号)

「にほんご人」は日本語を使って何かをしようとする人の総称、「oi」はベトナム語の呼びかけのことば。『にほんご人お〜い！』は日本語を使ってコミュニケーションをするみなさんのためのニュースレターです。

◆日本語力アップ

◆シンチャオ先輩

・地域計画建築研究所 Hoàng Ngọc Trang さん

◆日本語でお仕事

・働く人ーベトナム人への質問

スターツインターナショナルベトナム Nguyễn Ngọc Trà My さん

・一緒に働く人ー日本人への質問

同社 大塚 雅美 さん

◆もつといい先生になりたい！

-国際交流基金 第2回新規日本語教師育成講座受講生の声-

・日本国際学校 Phạm Thị Thắm さん

・タンロン大学 Nguyễn Thế Đức さん

◆コンテスト参加者の声

・Nguyễn Trang Mi さん (日本語フェスティバル出場者)

・Nguyễn Thị Loan さん (日本語フェスティバル出場者)

・Trần Thảo My さん (日本語フェスティバル出場者)

・Hoàng Như Ngọc さん (日本語フェスティバル出場者)

・Phạm Ngọc Linh さん (桜親善大使 Đại Sứ Thiện Chí Hoa Anh Đào)

◆日本への道

・Nguyễn Dương Đỗ Quyên さん

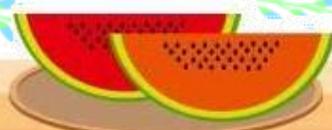
・Hoàng Vũ Đức 先生

◆まちかどのにほんご人

・崔玉春 (Tsui yuchun) さん

・Tim Middleton さん

・Iraj De Silva さん



日本語力アップに、

『まるごと+』サイトを活用！

ベトナム日本文化交流センター

日本語専門家 雄谷 進

みなさんは今、日本語を学び、日本語能力試験(JLPT)にも合格した人が多いと思います。でも語い、文法はよくわかるのに、なかなかうまく聞き取れない、話せないと感じている人がいるのではないのでしょうか。

教室では、限られた時間の中で成果(おそらく JLPT 合格)を出し、また多くの方に教室に来てほしい、そう思うので、どうしても JLPT 対策になる傾向が強いです。

そうすると、どうしてもベトナム語による説明を聞いて理解することが多くなり、「よくわかった、十分に理解した」と、思ってしまう。しかし理解できても、「聞く、話す」には、練習が大切です。その練習に有効な一つの方法が ICT 活用(サイト活用)だと思います。

国際交流基金(The Japan Foudation)では、日本語教育に役に立つサイトを提供しています。ここでは『まるごと+』について見ていきます。現在『まるごと 日本のことばと文化』入門、初級 1 は、ベトナム語版も出版されています。このベトナム語版を手元において、聴解や会話練習を『まるごと+』でやってみましょう。ちょうどサイトがリニューアルされ、使いやすくなりました。これがトップページのアドレスです。<https://a1.marugotoweb.jp/ja/>



各課ごとに会話文があり、動画を見ながら練習できます。サイトですから、よくわからなければ何度も繰り返し聞くこともできます。友達と二人、三人でいっしょに学べば、さらに楽しくなるでしょう。よく練習し、友達とロールプレイもおこなうと、さらに上達するでしょう。教室で理解したことを『まるごと+』のサイトを活用して、聴解、会話をのばせるよう、アクセスしてみましょう。きっと大きな効果がでてくると思います。

さらに詳しい説明は以下にありますので、ぜひアクセスしてみてください。

(こちらです) → <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/news/201905.html>



シンチャオ先輩

今月号は、日本への大学留学を経て、現在日本で地域経済の振興事業に関わるお仕事に従事されている Hoang Ngoc Trang さんにお話を伺いました。今後日本での留学や就学を目指している方は、日本語学習者の先輩のお話としてお読みください。



こんにちは。地域計画建築研究所（通称：アルパック）のチャンと申します。現在、大阪で地域経済振興に関わる仕事をしております。

昨年の8月から、2回目の日本での生活を始めました。1回目は5年前となりましたが、短期留学生として同志社大学で1年間勉強させて頂きました。日本での生活はこれまで合計2年足らずですが、日本語の勉強期間はもう7年半です。2011年に貿易大学ホーチミン市分校の国際経営学部に入學して、日本語を学びました。大学3年生になった時に、日本政府の奨学金を受けて、主に日本語と日本事情について日本で勉強しました。その時に、日本への理解をより深めたいと思い、自転車や電車で北海道から中国地方の隅々まで旅をして、充実した留學生活を送ることができました。

日本語は世界一難しい言語のトップ3だと言われています。その理由の一つは表記方法が3つあるからでしょう。漢字はもちろん、カタカナ表記の単語を覚えるのに今でも苦勞しています（汗）。カタカナ表記の多くの単語は英語由来だと言われています。ところが、アルファベットに慣れているベトナム人にとって、英単語もカタカナ表記となると戸惑ってしまうことが多いです。私は、新しいカタカナの単語に出会った時に一旦アルファベット表記を調べてから覚えます。少し時間と手間がかかりますが、そうすることによって忘れないのです。

そんな難しい言語なのにチャレンジしようと思う人は後を絶えない現状です。その人たちは日本文化や日本語の奥深さに魅せられているのではないのでしょうか。私は日本語能力が向上するとともに共に自分が成長していくと実感しています。大ざっぱな性格である私は、物事を適当に済ませてしまうことが多かったです。でも、日本語を使う時は気を遣います。同音語でも、漢字表記が違うことや同じフレーズでも目上の人に使わないこと等、日本語の奥深いところから、自分が適当に使っていた日本語を直すように意識しています。

私にとって、日本語はまさに知識の世界へのどこでもドアです。実は、ベトナムで科学研究をされている方々は英語で論文を書くことが多い為、ベトナム語のハイレベルな研究は英語論文に比べて圧倒的に少ないと思います。一方、日本では日本語で論文を書くことも多いため、何かを勉強しようと思った時に日本語で調べると有益な資料に簡単にアプローチできます。そういう意味で、日本語は「知識の世界へのどこでもドア」なのです。

正直なところ、日本語の難しさを克服できず、日本を嫌いになったこともありました。アルバイト先で上司に注意されたり、学校で日本人と友達になれなかったり、つらい思いして落ち込んでしまうことはいっぱいありました。やはり日本人は「表」と「裏」を使い分けていると思い込んでしまったこともあります。しかし、よく考えたら日本が好きで、日本に行きたいと思い続けていた自分、そして日本という国に対して、とても恥ずかしい考え方でした。自分にコンプレックスを抱いていたから、うまくコミュニケーションが取れなかったんじゃないかと気づきました。日本語を勉強したり、日本人と仕事をしたり、日本で生活している皆さんもそういう辛い経験があったかと思います。その時は、日本のことを理想化し過ぎたから、かえってダメージが大きいんじゃないかと一度冷静に考えてみてはどうでしょうか。そして、日本に来ることはゴールではなく、単にスタートラインに立ったに過ぎません。そこから一人でたくさんの壁を越えないといけません、楽しいこともいっぱい待っています。自分の固定観念にとらわれず、前向きにチャレンジして、皆さんにとって素敵な経験になることを願っています。

※執筆者の日本語原稿を編集して掲載しています。

日本語でお仕事

「日本語でお仕事」のコーナーでは、日系企業で働くベトナム人の視点から仕事について感じたことや経験についてお話を伺っています。また、同一の職場で働く日本人にもお話を伺い、立場の異なる視点から仕事について感じたことや経験について記事にし、掲載しています。今号のインタビューに答えてくださったのは、不動産業者であるスタートで働く Nguyễn Ngọc Trà My さんと大塚 雅美さんです。



・どのようなお仕事に従事されていますか。

→日本人へサービスアパート及びオフィスを紹介します。

・今の職場で働くようになったきっかけはなんで
すか。

→人材派遣会社から紹介してもらいました。

ベトナム人の方への質問

・日本人の方と一緒に働いていて楽しい、嬉しいことあるいは驚いたことはありますか。

→日本人の上司からいろいろなことを勉強できました。例えば：時間を守る、会議前にちゃんと準備しないといけない、問題の解決の仕方、問題があった時に、お客様へ伝える前に自分が納得して、その後、話をする；文化が違うことを理解して、大家さんの利益とお客さんの希望をバランスよく交渉する。

・職場での失敗談などがあれば教えてください。

→スタートに入る前、日本人と話す機会が無かったので、コミュニケーションにあまり自信を持っていませんでした。それで、日本語を練習するために、スタートに入りました。でも、最初、日本人の上司も、お客さんの話すことはまったくわかりませんでした。いろいろな迷惑をかけてしまいました。

・将来の夢を教えてください。

→今一番大きな夢は日本に留学できることです。そのため、頑張って日本語を勉強して、練習します。

・ベトナムでベトナム人と働こうと思っている方へのアドバイスがあったらお願いします

→文化が違くと、仕事の仕方もかわります。ベトナムでの仕事は、最初は多分いろいろ困ることがあります。しかし、「郷に入れば、郷に従え」ということがわかったら、ベトナムでの仕事は大丈夫だと思います。

・どのようなお仕事に従事されていますか。

→オフィス アパート仲介(建物のご紹介・アフターケア
—などをおこなっています)

日本人の方への質問

・ベトナムの方と一緒に働いて楽しい、嬉しいことあるいは驚いたことはありますか。

→当社のスタッフは、全てのスタッフが日本語とベトナム語ができるのですが、とは言え 2 つの言語が社内を飛び交う事になる為、理解をしあうのに、日本で働いていた時に比べ、仕事を完了させる時間が 2 倍から 3 倍かかってしまいます。絵を書いて説明、分かりやすい日本語にして説明、ウェブサイトから引用して説明など工夫しながら話を進めています。仕事が解決した時には、日本で働いていたより、何倍ものうれしさが残ります。問題点に対して、思った以上に時間がかかる為、忍耐力がつかと思います。仕事は仕事、家庭は家庭とくぎりよく仕事をしていきます。日本で仕事をすると、どうしても仕事を優先にしがちになりますが、ベトナムの様にしこし仕事以外での楽しみをみつけてもよいか？と思います。

・将来の夢を教えてください。

→2 年前に子供も生まれ(日本人とベトナム人のハーフ)、子供の為に、よい母親であるように行動をしていきたいと考えています。何になりたいなどは、ないですが、曲がったことをせず、真面目にコツコツと人生を送っていきたいです。

・今の職場で働くようになったきっかけはなんですか。

人材派遣会社を通して、ご紹介を頂きました。

・職場での失敗談などがあれば教えてください。

→ベトナム語の聞き取りを間違え、仕事を失敗する事が多いです。その為、再度スタッフに確認をした後お客様へお伝えをしています。失敗は、何でもつきものですが、そのあとどうするか、皆で話し合えるような環境にもっていけるよう工夫していきたいと考えています。

・ベトナムでベトナム人と働こうと思っている方へのアドバイスがあったらお願いします

→素直で、笑顔がきれいなベトナム人と、いつもそんなよい部分が絶えない環境をつかって仕事ができると皆さん、力を発揮すると思います。



もっといい先生になりたい！

—国際交流基金 第2回新規日本語教師養成講座受講生の声—

国際交流基金ベトナム日本文化交流センターでは、ベトナムにおける日本語教育の推進のために、ベトナムの日本語教育の将来を見据え、日本語教師養成のための講座を開講しています。今回はハノイで行われた第2回新規日本語教師養成講座の参加者にお話を伺いました。

【日本国際学校 Phạm Thị Thảo さん】



最近、私は「もっといい先生になりたい！」と思って、日本語教師養成講座に参加しようと思った。実は私は常勤日本語教師として働いたことはないが、大学の2年生からずっと今まで、いつも働きながら、パートタイムの形で、日本語を教えてきた。教えることが大好きだからである。日本語を学びたい人々と交流できて、自分の経験を伝えられて、楽しく学んでいただくから、うれしい。教えることができて、いろいろな人々に出会って、自分の人生も豊かになると感じている。そして、私は日本語を勉強してよかったなと思う。なぜかという、日本語を勉強したおかげで、日本の国や文化がわかってきたからだ。この日本の素晴らしいところを理解することは自分の考え方や価値観が広がることに繋がった。これから、さらにベトナム人の若者に日本語を勉強しもらえるように教えたいと思っている。

去年から、日本国際学校で働くことになった。珍しい学校で、教師は日本人で、日本語によるベトナム人の子供を対象にした教育を行っている。私はここで、授業の通訳アシスタントとして働いている。例えば、日本人が教える数学の授業に入って、子供が困ったとき、子供に通訳してあげる。そして、日本語ができない子供の補習も担当している。小さなことでも自分がサポートできることがあれば、サポートしていきたい。

最近、インターネットで、この養成講座を見つけて、自分に向いているんじゃないかと思った。私ももっといい先生になりたい。生徒にも日本語を楽しく学んでもらおう。さらに日本語が好きになってもらおう、との思いから、この養成講座に申し込もうと決心した。

※執筆者の原稿を一部修正して掲載しています。

【タンロン大学 Nguyễn Thế Đức さん】



二年間ぐらい日本語を教えてきた経験と、タンロン大学(Thang Long University)で勉強した日本語教育についての知識で、私が気づいたことは、効果的な教授のためには、教師は日本語が上手で、経験があるだけでなく、日本語教育に関する知識を知っておかないといけないということである。私は大学で基本的な日本語の教授法を習ったが、自分の教授法がもっと向上するように、学ぶべきことは多いと思っている。それで、今回 JF が行う教師養成講座を知り、ぜひ参加したいと思った。

現在、日本語センターで日本語を教えている。授業のほかに、教材とテストも自分で準備している。そして、学生がコースの目標に到達できるように、限られた授業の回数で何を教えるか、どこまで教えるかということについても考えて、コースをデザインしたり、調整したりしている。しかし、仕事の中で、いろいろまだうまく解決できないことがあるので、私にはもっと知識とスキルを身につける必要があると思っている。

今回の教師養成講座に参加して、教授法を改善したり、設定した目標に向かってコースをうまくデザインしたりするための知識やスキルが学べることを期待している。その知識では、私にとっても必ず役に立つし、ほかの教師には私も手伝えると思っている。

※執筆者の原稿を一部修正して掲載しています。

日本語コンテスト参加者の声

日本語フェスティバル

2019年5月12日(日)にベトナム、ハノイで国際交流基金ベトナム日本文化交流センター主催「日本語フェスティバル」を開催しました。110人を超える応募者の中から本選出場者として選ばれたハノイの8名に加え、各地域のスピーチ大会優勝者2名(ハイフォン、フエ各1名)の合計10名が、「心のふるさと」をテーマにスピーチを発表しました。過去の出場者は大学生がほとんどでしたが、今大会では高校生、また技能実習生送出機関からの出場者もいました。今回はその中の4名に出場した感想をお聞きました。

NGUYỄN TRANG MI さん (ハノイ)

今まで、私は日本語でスピーチをしたことはなかったので、日本語フェスティバル2019に参加して、私は前にできなかったことができました。そして、たくさんの発表を聞くことができました。人にとって心のふるさとは違いますが、皆の心のふるさはすごくきれいで、感動的だと思います。私にとっては参加者は皆素晴らしいかったです。さらに、私の先生たちと友達が応援してくれて、本当に感動しました。

※執筆者の日本語をそのまま掲載しています。

NGUYỄN THỊ LOAN さん (ハノイ)

私はたくさんの経験ができました。例えば、自信をもってみなさんの前で発表すること、発音やイントネーションを何度も何度も日本人の先生と練習しました。これからも母への感謝の気持ちを忘れずに、日本語の勉強を続けていきたいです。私は絶対にN1に合格して、日本人のように日本語を話せるようになりたいです。そして、もしまたチャンスがあったら、スピーチコンテストで優勝したいです。コンテストに参加させていただいて、本当に心から感謝しています。ありがとうございました。

※執筆者の日本語をそのまま掲載しています。

TRẦN THẢO MY さん (ダナン)

日本語フェスティバル2019に参加して、いい勉強になりました。ハノイやハイフォン、フエなどの参加者はすごく上手なので、ちょっと緊張しました。でも、楽しいことに自信を持って発表しました。一番印象が残ったことは皆凄くて、親切なことでした。結果は願望のどおりではないですが、色んなことをほめていただいて嬉しかったです。機会があれば、来年も参加したいです。

※執筆者の日本語をそのまま掲載しています。

HOÀNG NHƯ NGỌC さん (ハイフォン)

私はまだ高校生ですから、未来、どんな人になりたいとか、どんなしごとをしたいとかはまだちゃんとありません。ただ、日本語フェスティバルにさんかして、自分の能力をのびたいと思いました。そして、今日本語を勉強していますから、できたら未来で日本語を使う仕事をしたいです。

※執筆者の日本語をそのまま掲載しています。

さくら親善大使 2019

3月にハノイ市にて、「さくら親善大使 2019」の選考が行われました。100人近い応募の中から一次面接、最終選考を通過した2名がこのたび初代「さくら親善大使 2019」として選ばれました。

今回は、さくらを通じた友好親善大使として日越両国で様々な活動を行っている Phạm Ngọc Linh さんに、応募に至ったきっかけや、活動内容についてお話をお聞きしました。

Phạm Ngọc Linh さん



貿易大学日本語学科の学生だった時代に、日本語の勉強だけでなく、日本語での活動を通じて日本文化を調べることに興味をもって、日本語クラブの渉外担当責任者として活動を行いました。

卒業後、ベトナム航空の客室乗務員になりました。仕事はおもしろいです。飛行中は日本人のお客様に話しかけたり、日本では次の便まで時間があるときできるだけ日本語で話すようになっています。

偶然友達から桜親善大使のプログラムを聞いて、日越友好関係に貢献していきたいと思い、申し込むことにしました。幸運にも初代の桜親善大使の副大使として選んでいただき、日本桜協会及び在ベトナム日本大使館の方々と有意義な活動を行っています。

※執筆者のベトナム語を翻訳して掲載しています。

越日両国での桜親善大使としての活動

日本での活動:

- 4月9日:フィンランドさくらの女王ベンラ・アイラスマキ氏と日本さくらの会会長との面会・交流。
- 4月10日:第54回の桜祭り中央会議に出席
- 4月11日:日本国会本部にて日本の衆議院議長大島理森氏と参議院議長伊達一氏をはじめとする皆さんへの表敬訪問。さくら親善大使の活動を賞賛して頂き、日越の良好な関係に期待するとのお言葉を頂いた。
- 4月12日:総理大臣官邸にて安倍総理大臣に面会。ベトナムと日本の関係がさらに良好なものになり、桜の木がこれからベトナムとフィンランドで増えていくことに強く期待すると述べられた。

ベトナムでの活動:

- 3月29日:首相官邸で、グエン・スアン・フックベトナム首相及び日本内閣官房参与飯島勲氏一行への表敬挨拶。
- 4月30日:ハノイ平和公園で桜植樹に参加。同日の夜ハノイにおけるリ・タイ・ト記念碑広場で桜祭り開会式に出席。

第54回 さくら祭り中央大会

公益財団法人 日本さくらの会



日本への道

この「日本への道」のコーナーでは、日本に留学経験がある、もしくは今現在留学中のベトナム人の方にお話を伺っています。今回は日本文化を研究するため留学した経験を持ち、現在ベトナム社会科学院で研究員をされている Nguyễn Dương Đỗ Quyên さんと、海外日本語教師長期研修に参加して日本語教育について学び、現在は高校で日本語を教えている Hoàng Vũ Đức 先生にお話を伺いました。

Nguyễn Dương Đỗ Quyên さん

ベトナム社会科学院の研究員、グエン・ズオン・ドー・クエンと申します。2002年に、国際交流基金主催の「日本語フェスティバル」の前身である「日本語スピーチコンテスト」で優勝したご褒美として、スポンサーである富士吉原ライオンズクラブに招待され、静岡県富士市で1ヶ月の研修をさせて頂きました。当時、ホストファミリーとして協力して頂いた富士市文化振興財団の事務局長である杉本篤氏のお陰で落語と初めて出会い、日本の伝統芸能に魅了され始めました。17年経った今も、杉本氏を始め、多くの日本の方々を支えてくださったお陰で、日本の伝統芸能の研究に励んでおります。

特に、2009年に、ベトナム国家大学(ハノイ校)で勤務している間、国際交流基金 JENESYS プログラム(8週間)に採用され、昭和女子大学で聴講させて頂きました。その間、東京大学名誉教授、近世文学専門の延広真治先生にお会い出来、先生のご研究に刺激を受け、博士論文(2016年発表)では、幕末期から明治期にかけて活躍した落語の重鎮である三遊亭円朝を研究事例とし、ベトナムにおいてあまり注目されて来なかった、社会変遷における大衆芸能の大切な役割の研究に励むこととなりました。また去年は、同基金の日本研究フェローシップに採用して頂き、國學院大学での5ヶ月の留学中に、研究課題について更に理解を深めることが出来ました。

日本文化について興味を持つ方には、寄席を是非お勧めしたいです。他の芸能にない簡素さ、適応性、豊かな表現力、正に数百年の時を超えて伝承され続ける落語と、その文化的空間ならではの魅力を味わえるからです。

また、日本文化を研究することによって、自国の文化について気づかされることが多いと思います。今後とも、社会の発展に欠かせない芸術の役割を意識しつつ、両国の大衆芸能の比較研究に一步步取り組むとともに、日越の文化交流の架け橋になれば、これ以上の喜びはありません。

※執筆者の日本語をそのまま掲載しています。

Hoàng Vũ Đức さん

こんにちは。ホーチミン市のチュンヴン高校で日本語を教えているホアン、ヴー、ドゥックです。先輩が教えてくれたお陰で、日本の埼玉県で国際交流基金日本語国際センターの平成30年度の海外日本語教師長期研修に参加しました。

日本語教師としてまだ経験が少ない私は、この研修に参加して多くのことを経験しました。最初は総合日本語の授業で様々な言語活動を通して、コミュニケーション能力がもっと向上しました。また、教授法に関する基礎的な知識を整理し、模擬授業や自分の教授活動の振り返りを通して、自分の課題に気づき、解決方法を考えました。日本語教育に役立つICTの情報を共有し、教授活動に活かせる技能を身につけました。学習過程の振り返りや他の研修参加者との意見交換を通して、自己の成長を客観的に見つめる機会を持ちました。さらに、日本文化や日本社会に実際に触れ、日本に対する理解を深めました。29か国から来た41人の研修参加者同士のやり取りで様々な文化に触れることができました。最後に、研修期間中、日本語国際センター内外で知り合った多くの人々との交流を通し、帰国後の様々な活動に活かせるようなネットワークを作りました。

こんな有意義な長期研修を受けさせていただき、誠にありがとうございました。何よりも一生忘れられない素敵な思い出になりました。帰国後、日本で得た貴重な知識を大切に、同僚や学生に広げようと思います。授業を興味深いものにし、日本語、日本文化、日本のことに興味を持つ学生達を育てていきたいと思っています。その為にこれからももっともっと頑張ります。どうもありがとうございます。

※執筆者の原稿を一部修正して掲載しています。



まちかどのにほんご人

「あれっ。日本語話せるんですか?!」

街を歩いていると、いろいろなところで日本語が話せるベトナム人の方にお会いします。片言の日本語が話せる人から、流暢に話せる人までさまざまですが、皆さん一人ひとりが何らかの目標を持って日本語を身につけようとしているにほんご人だということがわかります。

今回インタビューしたのは、なんと皆さん海外出身の方々に、ベトナムが国際色豊かなことに改めて驚きました。どうして日本語が話せるのか、日本語を使ってどんなことをしたいかということについて、お話を伺いました。

どうぞご覧ください！

ホーチミンでお仕事をされている台湾ご出身の 崔玉春(Tsui yuchun)さん

日本語を勉強したきっかけは、35年前の昔話になりました。昨日のように記憶がまだ鮮明に覚えています。

15才の時、中学の卒業旅行で、社員旅行に台湾に来ていた日本の方に出会いました。その方と一緒に記念写真を撮り、お互いに連絡先を交換しました。一ヶ月後、一通の手紙が届きました。日本語が分からない私は、その手紙を読んでも、チンブンカンブンで分からなかった。クラスメイトの親戚に頼んで、内容がやっと分かりました。日本が読めたらいいな〜と思い、日本語が勉強できる高校を選んで、日本語を勉強し始めました。その方に出会えなかったら、今の自分が何をしているだろうとたまに思います。人生の幕を閉じるまで、誰でもどんな人生になるのかが分かりません。“人生って、楽しいものですね”美空ひばりさんが歌っていた“愛燦燦”のように違いありません。これからも日本語を使って、仕事だけではなく、沢山の方に出会い、カラフルな人生を創って行きたいと思って、今も頑張っています。

※執筆者の日本語原稿を編集して掲載しています。

ハノイで建築関係のお仕事をされている オーストラリアご出身の Tim Middleton さん

小さい頃から外国語と異文化に興味を持っていましたから、日本語じゃなかったらきっと他の言語を勉強したと思います。オーストラリアで中学校1年生に日本語を勉強し始め、先生はゲームを通して教えるので授業が楽しかったです。日本人の中学生が交換留学で私の家に来て、友達になりました。その出会いは日本語を話せるようになりたいきっかけになりました。現在ハノイに住んで環境に優しい建築設計をしています。ベトナムは日本と緊密な関係を持っていますので、日本人と働いて日本語を使う機会も多くて、とても嬉しいです。将来いつか日本にもどって何かをする気がします。でもどこにいても、日本語を忘れて、異文化に興味を無くすことは絶対にはないと思います。

※執筆者の日本語原稿をそのまま掲載しています。

ハノイ在住スリランカご出身の Iraj De Silva さん

実際、少しの日本語は僕も知っているのですが、日本語をまなんだのは、日本の車カタログを読みたかったからです。

8ねんまえ、日本の語学学校で日本語を習いました。だから文法の構成などもわかるし、よむこともできます。漢字以外は、だから、理解はできて、読めるのですが、話すのは難しいです。僕らは仕事のため違う国々を転々としているので、僕の日本語スキルも一向に上達しません。加えて、日本にいるときは、子供たちの英語能力をなくしたくないので、家では英語で話しています。ただ、日本の人々とはとても親切で、いつもどうやって笑うか知っていて、また、何をやってるのか、行ってるのかわかってない外国人をたすけようとするから、日本語を(日本で)学ぶのも楽しいです。おかしいのは、僕が日本語で話すと、みんな、女の子みたいに話すといいます。これはどうしようもなく、僕の日本語の先生たち(ほかの国で教えてくれる先生たちも)も女性だからです。

※執筆者の日本語原稿をそのまま掲載しています。

